流動的に働く

リゾートバイトから考える、「日本的雇用」とは異なる働き方

柿崎龍生

キーワード：日本的雇用、リゾートバイト、移動、やりたいこと、フリーター

要旨

本論文ではリゾートバイトの調査を通して、日本的雇用とは異なるその現場にはどのような人が集まり、どういった様相を呈しているのかを人類学的な視点から分析し明らかにすることを目的とする。加えてリゾートバイトの特徴である「移動すること」は働く上でどのような影響を及ぼし、またそれはフリーターの自己認識にどのような影響を与えているのかを論じる。

第 1 章では本研究の目的や背景、構成について述べる。第 2 章ではこれまでの人類学において「働くこと」がどのように考えられてきたのかを概観した上で、日本に独特とされる「日本的雇用」について確認する。さらにフリーターを巡る先行研究をレビューする。第 3 章では本論文の分析に関わる移動について確認した上で、本研究の意義と独自性を示す。第 4 章で調査に関わる情報を整理した上で、第 5 章ではインタビュー調査と参与観察から、リゾートバイトの現場とそこに関わるフリーターを描き出すことを試みる。第 6 章は結論とし、リゾートバイトのフィールドワークの調査結果を踏まえて研究設問への答えを示す。リゾートバイトの現場には学生からフリーターまで様々な人がそれぞれの目的を持ち集まっており、リゾートバイトを次のステップに必要な段階であると捉えていた。その現場では人間関係や派遣社員への教育、トラブルへの対処など数多くの状況に、移動することに伴う流動性が影響を与えていた。また移動することを通じ、フリーターの「やりたいこと」が明確化するプロセスも見てとれ、それによって彼らは自身のアイデンティティを強化し、社会の中に自身を位置付けているのであった。